

創造へ、そして失敗

この吾が身の成り余れる処を、汝（な）
が身の成り合わぬ処に刺（さ）し塞（ふた）
ぎて、国土（くに）生みなさむ

／解説／

【この吾が身の成り余れる処を、汝が身の成り合わぬ処に刺し塞ぎて、国土生み成さむ。】

この一節も男女の交合（身体の結合）に譬えて言葉の発声について述べたものです。父韻を母音の中に刺し塞ぐようにして声を出しますと、父韻キと母音アの結合でキア＝カとなり、父韻シと母音エでシエ＝セとなります。このようにして子音の三十二言霊が生れます。

「国土生み成さむ」の国土とは「組んで似せる」または「区切って似せる」の意です。組んで似せるとは父韻と母音とを組み合わせて一つの子音言霊を生むことを言います。その子音、例えばカの一音を生むことによってカという内容の実相に近づける事です。区切って似せると言えば、カという音で表わされるべきものを他の音で表わされるべきものから区切って実相を表わす、の意となります。

人間智性の根本リズムである言霊父韻と、精神宇宙の實在である母音言霊との結合で生れた、現象の実相を表わす単位である子音言霊を組み合わせて作られた日本語は、その言葉そのものが物事のまぎれもない真実の姿を表わす事となるという、世界で唯一つの言葉なのであるという事を、その言語を今も尚話すことによって生活を営んでいる現代の日本人が一日も早く自覚して頂き度いと希望するものであります。